

私は、本を読むことが好きで、いつも、本を読みます。だから、学校からの宿題で読書感想文が出たときに、私が好きな本を読みたいな、という気持ちになりました。せつかくなので、あまり読んだことのない本をさがしに、図書館に行きました。すると、「かあちゃん取扱説明書」という本を見つけました。この本を手にして、おもしろそうで、わらいながら読書感想文が書けるかな、という気持ちになりました。読むのを楽しみしながら、家に帰って、すぐに読みはじめました。

母ちゃん取扱説明書には、田村てつやという男の子がでてきます。この子は、お母さんの取扱説明書をつくります。きっかけは、お母さんにおかれてばかりいる日びをかえたかったからです。その後お母さんの取扱説明書をつくり始めます。お母さんをほめるのを中心にして、お母さんとお話すると、夜ご飯のメニューや、朝ご飯のスタイル、おやつ飲み物が、思いどおりになります。だけど、お母さんが、あまりにもちがうので、本当のお母さんが一番だということに気がつきます。

この本で、一番気になったところは、てつやが、とってもすらすらと取扱説明書を書けたことです。てつやは、その時、お母さんがとっても好きじゃなかったので、お母さんにしてほしいことをたくさん考えられるような気持ちだったのではないでしようか。だから、とってもすらすらと、取扱説明書を書けたのだと思います。

私は、てつやの行動に対して、問題をかいけつできる子だな、と思いました。私もてつやのように、いろいろな物を自分の力でかいけつしたいです。

この本のクライマックスでは、てつやが、お母さんは、お母さんのままで良いと気づきます。また、様々な経験を通して、てつやはわがままな男の子から、いろいろな物を感じることができる男の子へと変わっていきます。最初は、わがまままで、自己中心だったてつやが変わった姿を見て、私は、衝撃を受けました。そして、私もてつやのように、いろいろな物を感じることができる人になりたいです。

この本を読む前は、母ちゃん取扱説明書に対して、ただ、おもしろい本というイメージを持っていました。しかし、読み終わった後は、いろいろな物に感しゃをしたいという思いでいっぱいになり、いとうみくさんの作品を他にも読んでみたいな、と考えるようになりました。

また、母ちゃん取扱説明書を通して、お母さんのサポートが大切なのに気がつきました、今回学んだ感しゃや、お母さんの大切さと、読書の楽しみを、今後活かしていきたいです、